

苗木の植え方

天候は毎年変わります。札幌では、苗木の植える目安として、農家の方は、手稲山の雪が消える時と言い伝えています。確かに、毎年その動向を見て、それが一番の目安ではないかと思えます。その頃には遅霜の心配がなくなると言われています。

定植時の注意点

肥料を入れて、すぐに土を耕して植える事はなるべく避け、肥料や堆肥は、少なくとも2週間から一ヶ月前に入れて耕しておきましょう。

ナス、ピーマン、キュウリ、シシトウ、ナンバン類は肥料が多めに必要ですが、葉色が極端に青黒かったり、アブラムシが多発するのはチッソ分が多すぎる為です。

トマトはチッソ分に敏感なので、やり過ぎると変形果や病気が発生し、また、食べてもおいしくありません。最初はミネラル分だけにして(カルシウム、マグネシウム、燐酸、カリウム等)チッソは実がつき始めてから追肥しましょう。トマトに限らず、南瓜、西瓜、あじうり、メロン類などの「なりもの」は、肥料は多くない方が良いでしょう。

すぐに植えられない場合は、苗木を昼は日当たりのよい所に置いて、夜は家の中に入れてあげてください。

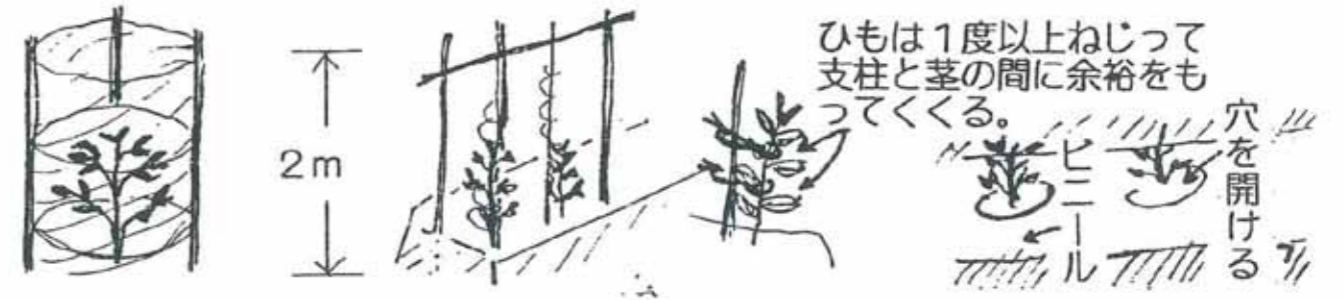
5月下旬-6月上旬は、遅霜の恐れがあるので、夜間は肥料袋等をかぶせ保温の方が、成育がよいです。植えた後、針金の3番線で輪を作り、肥料袋や米袋をかぶせて、頭に穴をあけてやるとよいでしょう。また、マルチングといって根元にビニールを敷いて地熱を高める方法もあります(家庭では黒いゴミ袋などで代用できます)

定植時はなるべく風の弱い天気の好い日の午前中が良いです。(ショックをなるべくやわらげるため)

鉢土が乾いていると活着が悪いので、前日、または当日の朝に水をたっぷりやるとよいです。バケツに水を入れ、鉢ごと「ドブづけ」する方法もあります。

また、風当たりの強いところでは防風ネット等を風上にはった方が生育がよいです。

苗物は、植える時にたっぷり水をあげたら、活着するまで水は出来るだけ控えましょう。根がよく伸びてくれます。



それでは苗がすくすくと育ちますように！！

